

モラルサイエンス研究会（令和2年5月27日）発表要旨

幸福への科学的アプローチ—これまでの歩みを振り返りながら—

廣池千九郎研究室
客員教授 中山理

発表者は海外 15 か国の大学でモラルと教育に関する講演会・学会発表・共同研究を行ってきたが、その理由は麗澤教育の原点に戻り、建学の理念の現代的展開を図るためであった。道徳・倫理の科学的研究とそれを基盤としての啓蒙活動にその生涯を捧げた廣池千九郎は、たえずグローバルな視点を念頭に置き、世界の人々の安心、平和、幸福の実現を目的とする諸活動を計画していた。その創立者の遺志を麗澤大学の学長の時代に少しでも実質化したいと考えたからであった。

また廣池は、最高道徳実践による永続的、創造的、審美的な幸福の実現も提唱していた。今後、現代の日本社会が人生 100 年の時代を迎えるにあたり、私たちが幸せに生きるにはどうすればよいのか。幸福実現に対する廣池のアプローチは科学的であるので、発表者も“well-being”実現のための科学的アプローチに注目し、哲学的視点や、実証心理学や臨床心理学の心理学的視点も管見しながら、モラロジーの現代的意義を考察した。